漁 海 況 年 報

令和６年１月１日～令和６年12月31日

静岡県水産・海洋技術研究所
（電話 054-627-1815）

静岡県水産･海洋技術研究所伊豆分場
（電話 0558-22-0835）

［黒 潮 流 路］

図１に黒潮流型の区分を、表１に直近20年の半月毎の流型を示した。また、図２には令和６年１～12月における月の前･後半の代表的な黒潮流路を示した。

令和６年の黒潮流路は、４月上旬～中旬に一時的に八丈島の南を通過する非典型的大蛇行流路となったが、年を通じて平成29年９月に発生したＡ型で推移した。

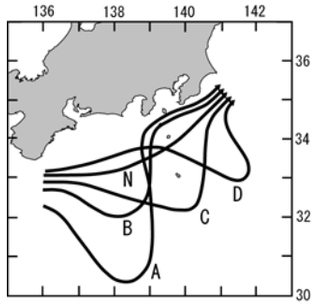

図１　黒潮流型の区分

表１　黒潮流型の経過

年	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月	
H17	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	C	C	C	C	C	C	C	D	D	N	N	N	N
H18	N	N	N	NB	C	C	C	N	N	N	N	N	N	N	N	N	B	C	N	C	D	D	N	N
H19	N	BC	D	B	B	C	C	C	C	C	C	N	N	B	C	C	C	C	W	N	C	C	C	D
H20	C	C	N	N	N	N	N	B	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
H21	C	C	C	C	C	C	C	WB	C	C	C	C	C	C	C	W	C	C	C	N	B	B	C	C
H22	D	DN	N	BC	N	N	W	C	CD	D	N	N	NB	B	B	N	N	N	N	N	B	N	BC	CN
H23	N	N	N	B	B	C	C	DW	N	BC	C	DN	N	N	N	B	N	B	C	D	N	N	N	N
H24	N	N	N	B	C	C	C	N	B	C	C	DN	N	N	N	N	N	N	N	N	N	B	C	C
H25	CW	ND	D	DN	N	N	N	NB	B	BC	C	C	C	W	W	B	C	C	C	C	C	C	C	C
H26	C	C	C	C	C	W	C	BC	N	N	BC	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N
H27	N	BC	C	W	WB	C	C	C	C	CD	DC	DN	N	NDW	W	WC	C	C	C	C	N	N	NB	BC
H28	C	CN	N	N	N	NB	BC	C	C	C	C	C	C	CB	BN	N	B	BC	C	CWB	CW	WC	CW	CB
H29	B	BC	C	C	B	C	C	C	CD	DW	W	B	C	C	C	W	W	A	A	AC	CA	A	A	A
H30	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
R1	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
R2	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	AB	N	NA	A	A	A
R3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
R4	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
R5	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
R6	A	A	A	A	A	A	AW	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A

参考資料：海洋速報（海上保安庁）、関東・東海海況速報
静岡県水産・海洋技術研究所一部改変

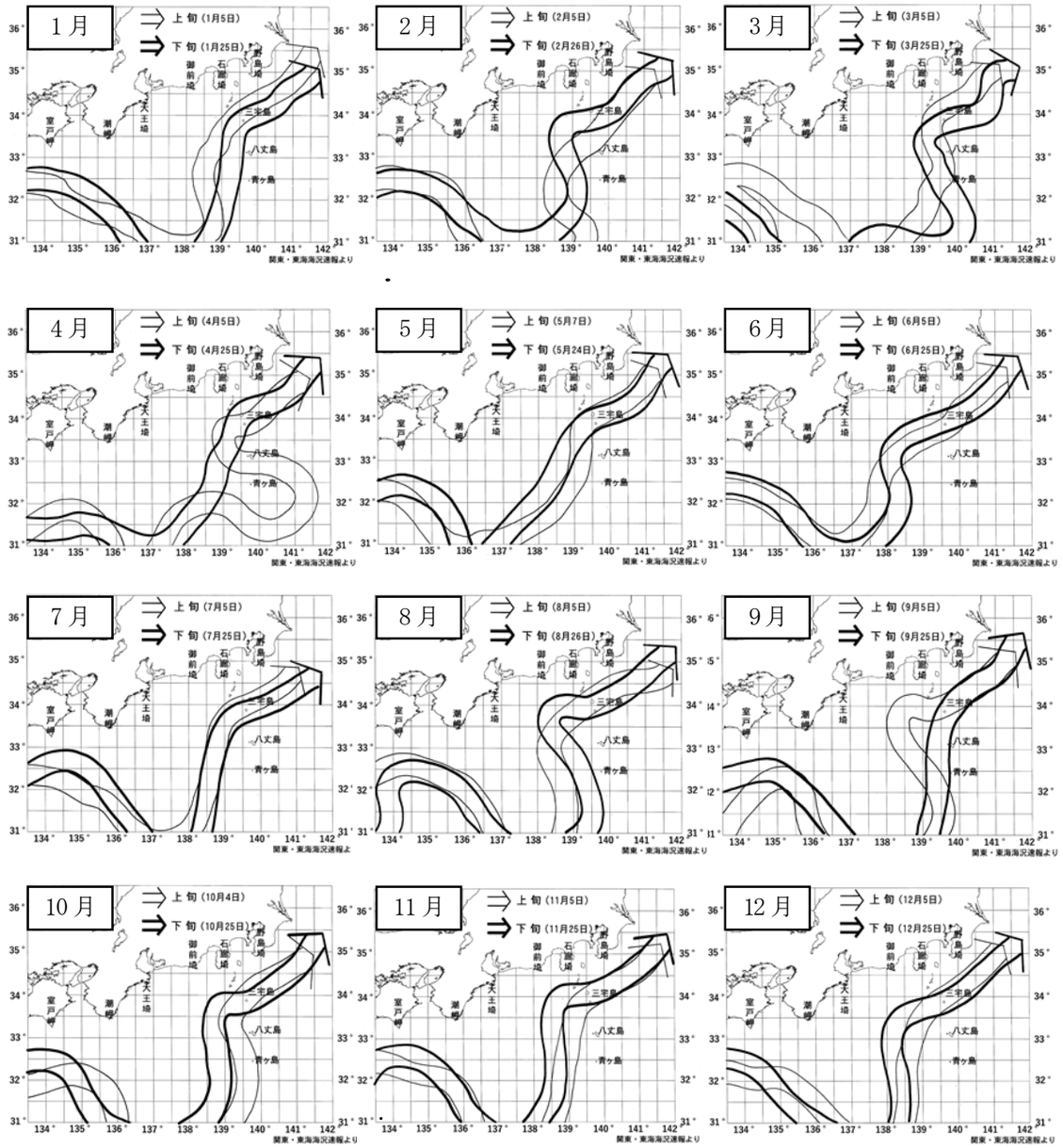

図２　令和６年の月別黒潮経路（ ⟶上旬　⇒下旬　関東・東海海況速報から）

［県 下 沿 岸 域］

図３に令和６年１～12 月における旬別の沿岸平均水温を示した。

令和６年の県下沿岸水温は、伊豆東岸（伊東・稲取・下田）、駿河湾（雲見・沼津・焼津）で概ね「やや高め」～「高め」で推移した。

月毎の測点別の沿岸水温は、次のとおりであった。

１月は稲取で「平年並」、伊東、下田、焼津で「やや高め」、雲見、沼津で「高め」であった。
２月は伊東、稲取、下田、焼津で「やや高め」、雲見、沼津で「高め」であった。
３月は全ての地点で「やや高め」であった。
４月は下田、雲見、沼津、焼津で「やや高め」、伊東、稲取で「高め」であった。
５月は全ての地点で「やや高め」であった。
６月は全ての地点で「やや高め」であった。
７月は稲取、下田で「やや高め」、伊東、雲見、沼津、焼津で「高め」であった。
８月は伊東、稲取、下田で「高め」、雲見、沼津、焼津で「極めて高め」であった。
９月は伊東、稲取、下田で「やや高め」、雲見、沼津、焼津で「高め」であった。
10 月は伊東、焼津で「やや高め」、稲取、下田、雲見、沼津で「高め」であった。
11 月は全ての地点で「高め」であった。
12 月は伊東、稲取、沼津で「平年並」、下田、雲見、焼津で「やや高め」であった。

沿岸水温の平年偏差の目安

＋2.5℃～	極めて高め	～－2.5℃	極めて低め
＋1.5℃～＋2.4℃	高め	－2.4℃～－1.5℃	低め
＋0.5℃～＋1.4℃	やや高め	－1.4℃～－0.5℃	やや低め
0℃～＋0.4℃	平年並(+基調)	－0.4℃～0℃	平年並(-基調)

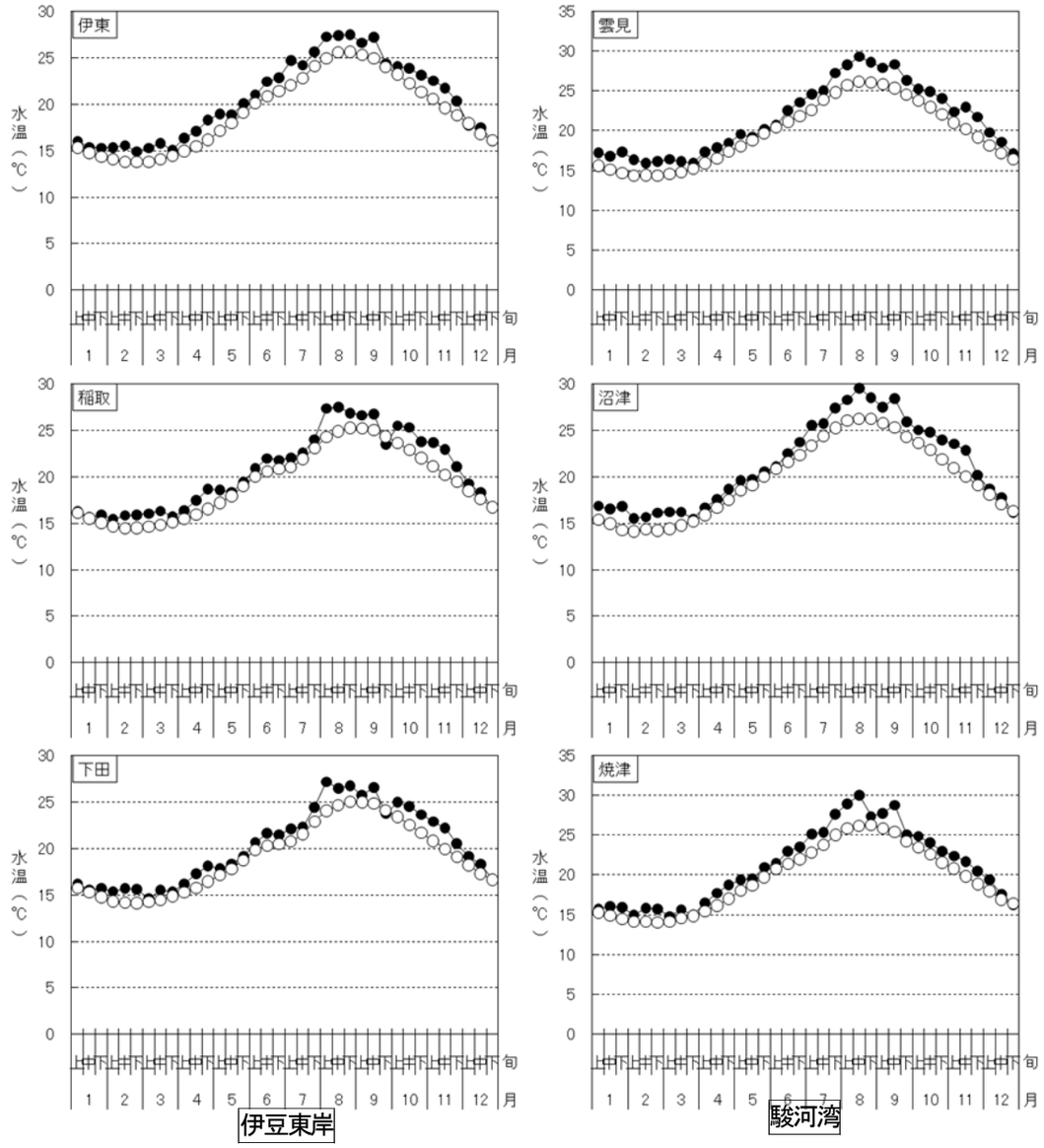

図３　令和６年１～12 月の旬別沿岸水温　（●：令和６年値　○：平年値※）
※平成３～令和２年の30 年平均値

[サバたもすくい棒受網]

１　たもすくい（令和６年１～12 月）

令和６年漁期の操業は１月 10 日に始まり、北部海域の大島千波でゴマサバ主体の操業が行われた。２月 18 日には大島千波にマサバ主体の漁場が形成され、今漁期のマサバ初漁日となった。３月は大島千波にゴマサバ主体の漁場が形成された。４月は大島千波にゴマサバ主体、利島にマサバが主体の漁場が形成された。マサバの漁獲量は４月下旬に最大となった。５月は大島千波及び利島に漁場が形成され、ゴマサバ主体の操業が行われた。５月中旬以降、マサバは混じる程度であった。６月は利島及びひょうたん瀬でゴマサバ主体の操業が継続した。7、８月は利島に漁場が形成された。９月以降は大島千波及び利島に漁場が形成され続けたが、漁況は低調に推移し、11 月上旬と 12 月上旬にまとまった漁獲が見られた後、12 月中旬には再び低調となった。

令和６年１～12 月における静岡県主要４港（伊東・静浦・沼津・小川）の水揚量は、マサバが 217 トン（前年：384 トン）、ゴマサバは 881 トン（前年：1,954 トン）と共に前年を大きく下回った。また、1～6 月のマサバ CPUE（1 夜１隻）は 1.6 トンで前年（2.7 トン）を大きく下回った。

２　棒受網（令和６年４、7～8 月）

令和６年は５月上旬まで大島千波や利島に漁場が形成されたが、全船たもすくい漁業を行っていたため、今漁期の棒受網漁業の初漁日は５月 18 日夜であった。漁場はひょうたん瀬に形成され、CPUE（1 夜１隻）は 1.2 トンであった。５月下旬以降はゴマサバ主体の漁場が北部海域に形成されたため、全船がたもすくい漁業へと転向した。６月上旬になりゴマサバ漁場が三宅島周辺海域、ひょうたん瀬及び銭洲に形成され、CPUE は 1.9 トンであった。６月下旬は再び北部海域に漁場が形成されたため、全船たもすくい漁業を行った。以降、大島千波や利島といった北部海域に漁場が形成され続けたことを受け、今期の棒受網操業は終漁となった。

令和６年の静岡県主要４港（伊東・静浦・沼津・小川）におけるゴマサバ水揚量は 11 トン（前年の 48%）であった。CPUE は 1.8 トンであった（前年：10.4 トン）。

※　伊東・静浦・沼津・小川の４港

３　小川魚市場におけるさば類単価（表２）

令和６年の小川魚市場におけるたもすくい・棒受網のさば類月別単価は、マサバが 130～260 円/kg（1～6 月）、ゴマサバが 165～269 円/kg（1～12 月）であった。マサバ、ゴマサバともに全国的な不漁の影響を受け、価格は高値で推移した。

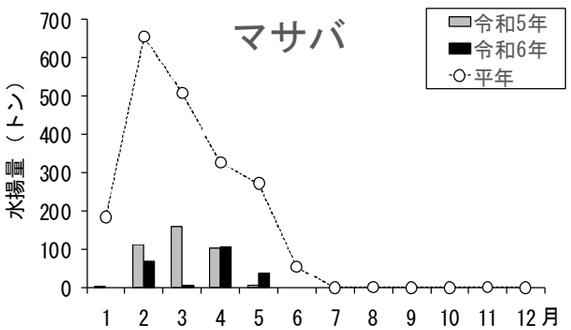

図４　たもすくい・棒受網による マサバ月別水揚げ量の推移（静岡県主要４港）

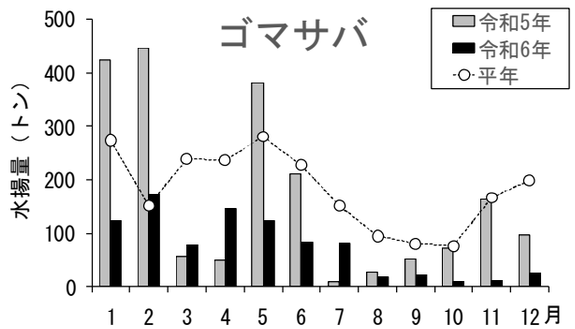

図５　たもすくい・棒受網による ゴマサバ月別水揚げ量の推移（静岡県主要４港）

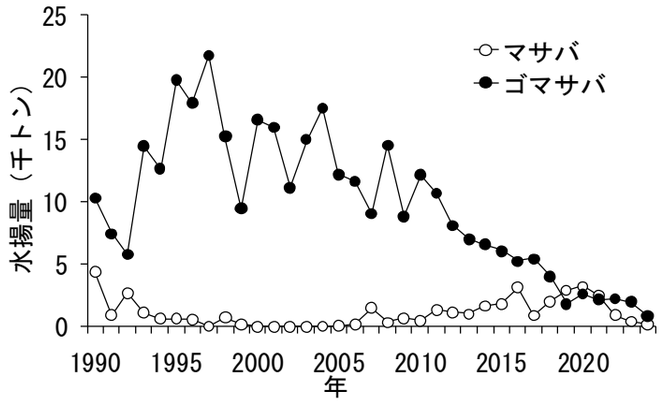

図６　たもすくい・棒受網による魚種別さば類水揚量（静岡県主要４港）
※2009 年以前はたもすくいによる水揚げも含む

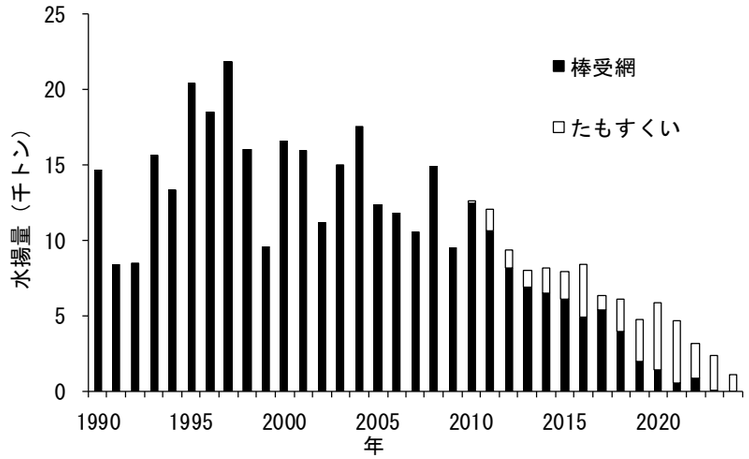

図７　たもすくい・棒受網による漁業種類別さば類水揚量（静岡県主要４港）
※2009年以前はたもすくいによる水揚げも含む

表２　小川魚市場（焼津市）におけるたもすくい・棒受網のさば類月別単価（単位：円/kg）

年	魚種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和2年	マサバ	156	125	81	88	98	271	332	－	－	－	－	216
	ゴマサバ	121	120	128	116	112	138	134	122	100	121	102	102
令和3年	マサバ	203	96	79	61	106	124	－	－	－	－	187	127
	ゴマサバ	114	111	82	92	107	103	123	121	155	131	138	124
令和4年	マサバ	126	121	86	95	165	191	－	324	－	－	203	－
	ゴマサバ	111	100	75	92	160	117	143	171	168	141	150	161
令和5年	マサバ	328	266	184	168	153	171	－	－	－	－	－	237
	ゴマサバ	212	195	185	212	170	180	175	194	163	156	207	216
令和6年	マサバ	245	260	226	169	130	216	－	－	－	－	－	－
	ゴマサバ	217	202	218	198	165	201	211	269	239	213	197	218

[サクラエビ船曳網]

春漁は3月25日夜～6月3日夜にかけて操業が行われた。この春漁ではサクラエビの主産卵場である湾奥に1日当たりの操業隻数を最大10ヶ統とした保護区を設定する等の産卵エビの保護を目的とした自主規制が導入された。出漁日数は19日、漁獲量は340.3トンで、漁場は主に戸田沖、田子の浦～由比沖に形成された（前年の出漁日数は20日、漁獲量は308.9トン）。漁獲されたサクラエビは、平均体長38.4㎜（前年は38.3㎜）の0歳エビ（2023年生まれ）が主体であった（図8）。

秋漁は11月4日夜～12月25日夜にかけて操業が行われた。この秋漁では産卵後の1歳エビ（2023年生まれ）を漁獲の主体とし、2025年春に親となる0歳エビ（2024年生まれ）への漁獲圧を低減するため、海域ごとに異なる1歳エビ割合の漁獲可能基準を設定した自主規制が導入された。出漁日数は15日、漁獲量は189.0トンで、漁場は主に大井川沖～榛原沖に形成された（前年の出漁日数は17日、漁獲量は192.0トン）。漁獲されたサクラエビは、平均体長31.9㎜（前年は31.8㎜）の0歳エビと平均体長40.8㎜（前年は40.8㎜）の1歳エビの2群で構成された（図9）。

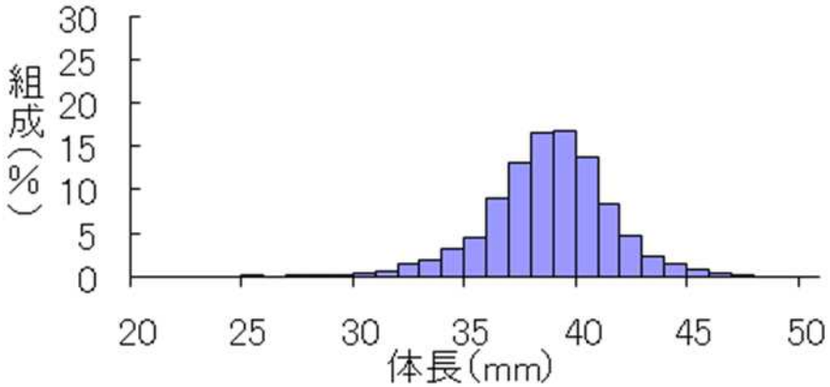

図8　令和6年春漁で漁獲されたサクラエビの体長組成

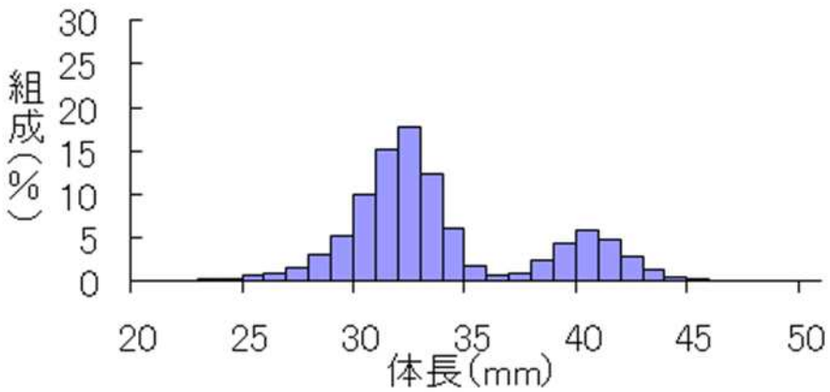

図9　令和6年秋漁で漁獲されたサクラエビの体長組成

[竿釣り近海カツオ]

1　水揚量と魚価

令和6年の静岡県主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海・沿岸竿釣り船の水揚量は517トンで、前年の829トンを下回り、過去5か年平均（949トン）の54%であった（表3）。

平均単価は385円/kgで前年（445円/kg）および過去5か年平均（401円/kg）を下回った（表3）。

2　漁況（漁場形成と魚体）

御前崎港での魚体測定及び漁場聞き取り調査から、漁況はおおむね次のとおり推移した。

1月　水揚げなし

2月　水揚げなし

3月　3月上旬に海徳場で操業した近海竿釣り船の水揚げが始まり、大（尾叉長59㎝）カツオを主体に水揚げした。沿岸竿釣り船は3月中旬から水揚げした（大銘柄・漁場不明）。

4月　沿岸竿釣り船が伊豆諸島北部海域で、近海竿釣り船が松生場で操業した（大中銘柄）。

5月　沿岸・近海竿釣り船が伊豆諸島北部海域で操業し、大（尾叉長62㎝）カツオを主体に水揚げした。

6月　沿岸竿釣り船が大王埼～伊豆諸島北部海域で、近海竿釣り船が伊豆諸島北部海域などで操業し、小（尾叉長49㎝）カツオを主体に水揚げした。

7月　沿岸竿釣り船が伊豆諸島北部海域で操業し、中（尾叉長51㎝）カツオを主体に水揚げした（近海竿釣り船の水揚げなし）。

8月　沿岸竿釣り船が伊豆諸島北部海域で、近海竿釣り船が伊豆諸島海域および小笠原諸島海域で操業し、中（尾叉長51㎝）カツオを主体に水揚げした。

9月　沿岸竿釣り船が遠州灘～伊豆諸島北部海域で操業したほか、近海竿釣り船が操業し（漁場不明）、中（尾叉長52㎝）カツオを主体に水揚げした。

10月　沿岸竿釣り船が大王埼、伊豆諸島北部海域で操業した（中銘柄、近海竿釣り船の水揚げなし）。

11月　近海竿釣り船が海徳場で操業したほか、沿岸竿釣り船が操業し（漁場不明）、小（尾叉長44㎝）カツオを主体に水揚げした。

12月　水揚げなし

表３　令和６年近海・沿岸竿釣り船のカツオ水揚量等（県内主要５港）

年　月	水揚量（トン）	水揚隻数	水揚／隻（トン）	平均単価（円／kg）	主漁場と魚体（　）内は尾叉長モード、単位はcm
R6年1月	－	－	－	－	－
2月	－	－	－	－	－
3月	5	5	1.0	1,090	海徳場(59)
4月	22	15	1.5	533	伊豆諸島北部海域、松生場(未測定)
5月	105	31	3.4	383	伊豆諸島周辺海域(62)
6月	83	29	2.9	305	大王埼～伊豆諸島北部海域(49)
7月	95	46	2.1	391	伊豆諸島北部海域(51)
8月	60	25	2.4	415	伊豆諸島北部、小笠原諸島海域(51)
9月	89	54	1.6	405	遠州灘～伊豆諸島北部海域(52)
10月	54	14	3.8	284	大王埼、伊豆諸島北部海域(未測定)
11月	6	6	0.9	668	海徳場(44)
12月	－	－	－	－	－
R6年計※	517	225	2.3	385	
R5年計	829	261	3.2	445	
過去5年平均	949	294	3.3	401	令和元～令和5年の平均

※各月の数値は四捨五入しているため、各月合計値と年計と一致しない場合がある。

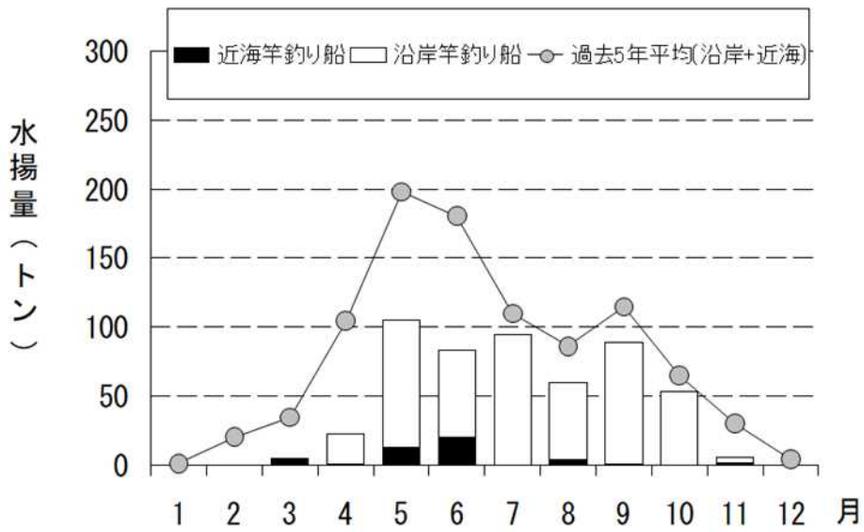

図10　近海･沿岸竿釣りカツオの月別水揚量の推移

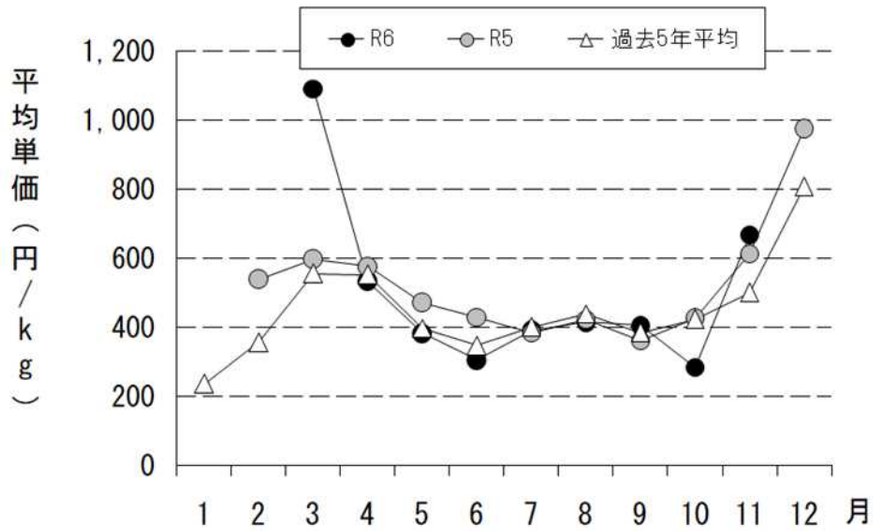

図11　近海･沿岸竿釣りカツオの月別平均単価の推移

［まき網（いわし類）］

1　マイワシ

令和６年における伊東港の総水揚量は226 トンで、前年(88 トン)の2.6 倍、平年※(652 トン)の35%であった。最も水揚量が多かったのは８月で95.6 トンであった。

沼津港の総水揚量は2,849 トンで、前年(1,954 トン)の1.5 倍、平年(3,829 トン)の74%であった。最も水揚量が多かったのは３月で1,347 トンであった。

小川港の総水揚量は2,339 トンで、前年(1,106 トン)の2.1 倍、平年(1,691 トン)の1.4 倍であった。最も水揚量が多かったのは４月で1,174 トンであった。

2　カタクチイワシ

令和６年は沼津港では水揚げがなかった。

小川港の総水揚量は2.5 トンで、前年(0.1 トン)の23 倍、平年(13.4 トン)の19%であった。

※平年：過去５か年(令和元～令和５年)平均

［シラス船 曳 網］

令和６年漁期の県内７港(由比、用宗、吉田、御前崎、福田、舞阪、新居)における総水揚量は2,134 トンで、前年(2,666 トン)の80%、平年※(4,427 トン)の48%であった。また、駿河湾(由比、用宗、吉田)では856 トンで、前年(1,218 トン)の70%、平年(1,648 トン)の52%であった。遠州灘（御前崎、福田、舞阪、新居)では1,278 トンで、前年(1,449 トン)の88%、平年(2,779 トン)の46%であった。総水揚金額は25.9 億円で、前年(40.7 億円)の64%、平年(37.4 億円)の69%であった。平均単価は1,213 円/kg で、前年(1,526 円/kg)の80%、平年(917 円/kg)の1.3 倍であった。

３月は248 トンで前年（121 トン）の2.1 倍、平年（283 トン）の88%であった。４月は512 トンで前年（477 トン）の1.1 倍、平年（676 トン）の76%であった。５月は398 トンで前年（413 トン）の96%、平年（860 トン）の46%であった。６月は327 トンで前年（564 トン）の58%、平年（667 トン）の49%であった。７月は197 トンで前年（302 トン）の65%、平年（551 トン）の36%であった。８月は36 トンで前年（210 トン）の17%、平年（464 トン）の8%であった。９月は158 トンで前年（134 トン）の1.2 倍、平年（391 トン）の41%であった。10 月は92 トンで前年（82 トン）の1.1 倍、平年（270 トン）の34%であった。11 月は81 トンで前年（62 トン）の1.3 倍、平年（113 トン）の72%であった。12 月は40 トンで前年（255 トン）の16%、平年（120 トン）の33%であった。１月は46 トンで前年（47 トン）の99%、平年（32 トン）の1.5 倍であった（図12)。

シラスの魚種別の漁況は、カタクチイワシのシラスが漁期を通じて漁獲され、最も水揚量が多かったのは、４月(391 トン)であった。マイワシのシラスは4～5 月に漁獲され、最も水揚量が多かった月は４月(81 トン)で、最も水揚割合が多かった月も４月(16%)であった。ウルメイワシのシラスは3～5､1 月に漁獲され､最も水揚量が多かった月は５月(37 トン)で､最も水揚割合が多かった月も５月(9%)であった(図13)。

※平年：過去５か年(令和元～令和５年)平均

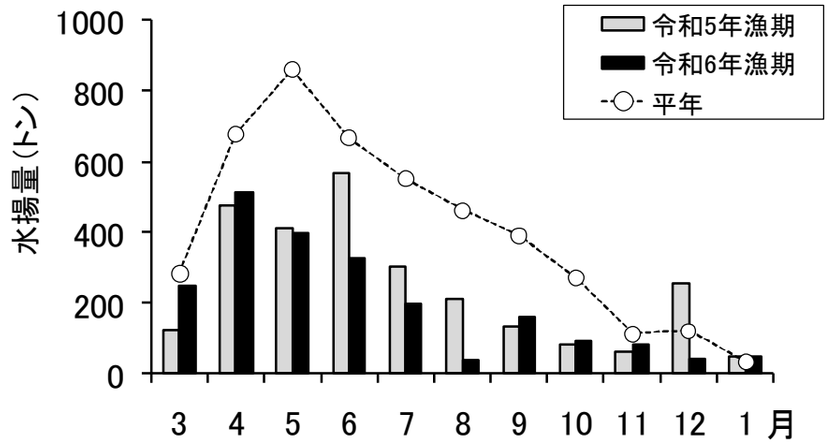

図12　令和６年漁期　県内７港シラス水揚量の推移

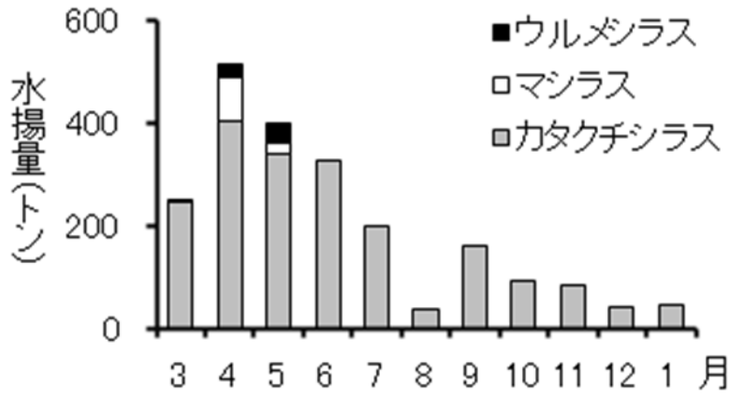

図13　令和６年漁期　県内７港シラス魚種別水揚量の推移

［ 定　置　網 ］

令和６年の伊豆半島東岸大型定置網７か統（伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の水揚量は4,573 トンで、前年水揚量4,277 トンの1.1 倍、平年値（昭和57 年～令和５年平均）3,965 トンの1.2 倍であった。月別漁獲量では３～6、９月は前年を上回り、12 月は前年並み、1、2、7、8、10、11 月は前年を下回った（図14）。

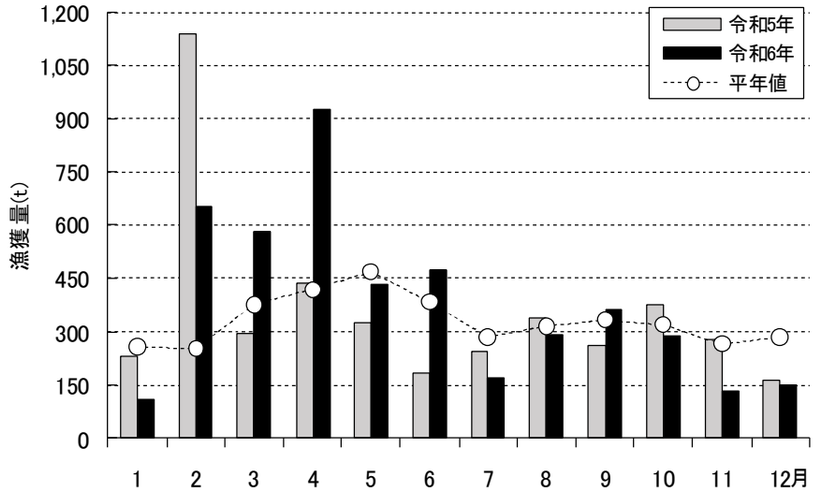

図14　月別水揚量の推移

漁場別水揚量は、古網、川奈、赤沢漁場は前年を上回り、富戸、谷津漁場は前年並み、伊豆山、北川漁場は前年を下回った。水揚量の多かった漁場は、順に古網（マイワシ、マルソウダ、マアジ主体）、川奈（ブリ、マイワシ、マルソウダ主体）、北川（マルソウダ、マイワシ、マアジ主体）漁場であった（図15）。

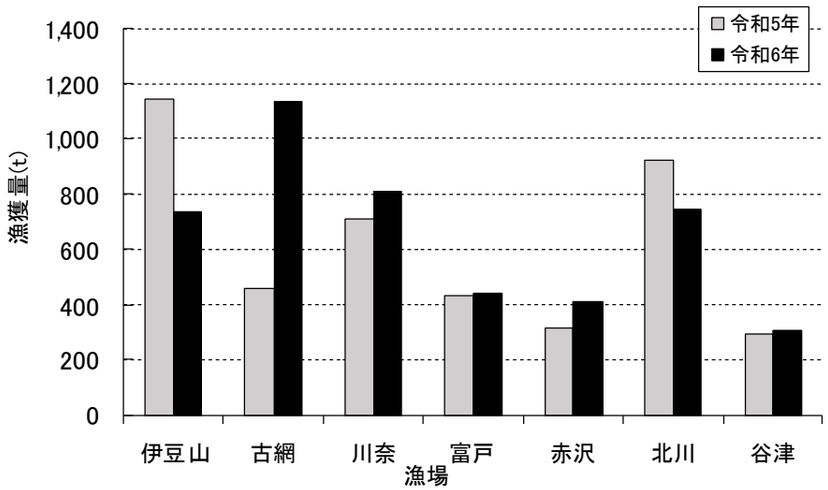

図15　漁場別水揚量

多獲された魚種（上位10 種）の水揚量は表４のとおりで、マアジ、マルソウダ、イサキ、メアジは前年を上回り、マイワシは前年並み、ブリ、さば類、ヤマトカマス、クサヤモロ、オアカムロは前年を下回った。

マアジは1,317.9 トン、前年比2.2 倍、平年比2.8 倍で、4、5、6、8 月に水揚量が多かった（年間平均水揚量を上回った）。水揚げされたマアジのうち、じんだ（小型当歳魚銘柄）は25.2 トンで、前年比32%、平年比82%であった。

マイワシは1,285.2 トンで、前年比95%、平年比3.1 倍であった。2～4 月に水揚量が多く、中羽～大羽主体であった。

マルソウダは881.2 トン、前年比2.6 倍、平年比3.6 倍で、5、6、9 月に水揚量が多かった。

ブリは715.2 トン、前年比67%、平年比2.5 倍で3～5 月に水揚量が多かった。銘柄わらさ、ぶり主体であった。水揚げされたブリのうち、ぶりは244.9 トンで前年比3.4 倍、平年比2.3 倍、わらさは265.6 トンで前年比50%、平年比2.3 倍、いなだは6.4 トン、前年比1.2 倍、平年比18%、わかしは20.5 トン、前年比2.0 倍、平年比90%であった。

さば類は523.4 トン、前年比61%、平年比49%で2、3、5、7、9 月に水揚量が多かった。水揚げされたさば類のうち、マサバは103.2 トンで、前年比1.3 倍、平年比1.2 倍、ゴマサバは289.8 トンで、前年比51%、平年比32%、さばっこ（小型当歳魚銘柄）は39.3 トンで、前年比47%、平年比55%であった。。

表４　多獲された魚種の水揚量

魚種	水揚量（トン）	前年比	平年比
マアジ	1,317.9	2.23	2.77
マイワシ	1,285.2	0.95	3.12
マルソウダ	881.2	2.60	3.55
ブリ	715.2	0.67	2.54
さば類	523.4	0.61	0.49
ヤマトカマス	382.0	0.44	4.62
クサヤモロ	104.4	0.19	11.31
イサキ	68.4	2.97	1.21
オアカムロ	64.9	0.85	2.02
メアジ	64.1	3.54	4.29

静岡県水産・海洋技術研究所のホームページ
トップページ　……　https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/
海洋情報のページ……　https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/01ocean/
右のQRコードから、人工衛星による観測情報、県内沿岸水温情報、関東・東海海況速報等を見ることができます。